

2020年度事業報告について

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

1. 大同生命地域研究賞

(定款第4条第1号に該当)

大同生命地域研究賞は、地球的規模における地域の総合的研究の一層の発展を支援することを目的として、1986年に創設された。

本財団の設立目的である国際相互理解の向上にあたり、地域研究が指向する目的と基本において一致することから、この賞を設け、学会関係者の指導、協力を得て主宰してきた。

(1) 第35回 大同生命地域研究賞の贈呈

推薦書受付、選考委員会ならびに贈呈式の開催状況は以下のとおり。

1) 推薦書受付

- ①推薦委員数：81名(2020年3月末)
- ②推薦期間：2月28日～4月30日
- ③受付件数：21件(研究賞5件、奨励賞14件、特別賞2件)

2) 選考委員会

- ①開催日：2020年5月26日(火)
- ②開催場所：Web (Zoom)開催
- ③出席委員：井上 真 氏(早稲田大学 人間科学学術院 教授)
印東 道子 氏(国立民族学博物館 名誉教授)
臼杵 陽 氏(日本女子大学文学部 教授、同図書館
館長)(委員長)
小長谷 有紀 氏(独立行政法人日本学術振興会 監事)
松田 素二 氏(京都大学大学院文学研究科 教授)

④受賞者：以下のとおり。

○大同生命地域研究賞(副賞 300万円)

「ベトナム・東南アジアにおける普遍的要因を重視した地域研究」
に対して

日越大学学長

古田 元夫 氏

○大同生命地域研究奨励賞（副賞 100万円）

- ・「中央アジアにおける水利と社会に関する歴史学的地域研究」
に対して
筑波大学人文社会系准教授 塩谷 哲史 氏
- ・「インド洋西海域世界における移動性の総合的・動態的研究」
に対して
国立民族学博物館グローバル現象研究部准教授 鈴木 英明 氏
- ・「バングラデシュにおける次世代から見た社会変動の研究」
に対して
神戸女学院大学文学部英文学科准教授 南出 和余 氏

○大同生命地域研究特別賞（副賞 100万円）

該当者なし

3) 贈呈式

2020年7月22日（水）にクラブ関西（大阪）での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。後日、受賞者からのビデオメッセージをメールマガジンで関係者および財団HPで配信。

(2) 大同生命地域研究賞フォーラムの開催

受賞者の研究成果の披露および賞の知名度の一層の向上等を兼ねたフォーラムについては、本年度はコロナ禍により、無観客でのビデオ講演会とし、メールマガジンで関係者および財団HPで配信。講演者は、本年度大同生命地域研究奨励賞受賞者のなかから以下の2名。

〔ビデオ配信による講演〕

講演者	テーマ
鈴木 英明 氏	「インド洋西海域世界を考える ーフィールドと史料のあいだでー」
南出 和余 氏	「バングラデシュにおける次世代から見た社会変動の研究」

2. 翻訳出版

(定款第4条第2号に該当)

(1) アジア諸国の現代文芸作品の日本語翻訳出版

<「アジアの現代文芸」シリーズ>

本年度の発行図書は次のとおりである。これにより対象国は14カ国、出版作品数は76作品となった。

・No.75 ベトナム ⑤

(書名) 『幼い頃に戻る切符をください』

発表年 2008年

著者 グエン・ニャット・アイン(1955年～)

訳者 伊藤 宏美 加藤 栄監訳

・No.76 トルコ ①

(書名) 『オメル・セイフェッティン短編選集』

発表年 1918年

著者 オメル・セイフェッティン(1884年～1920年)

編訳者 鈴木 郁子

※上記作品は、紙ベースとあわせて電子書籍で発刊。電子書籍の出版作品数は、計53作品。

【参考】 電子書籍サイトのアクセス数 (件)

サイト名	2018年度	2019年度	2020年度	平均/日
アジアの現代文芸	7,821	8,023	11,812	(32.4)
電子図書館	2,266	3,849	4,470	(12.2)
【ダウンロード数】	873	2,437	4,059	(11.1)

(2) アジア各国語への翻訳出版<「ジャパニーズ・ミラーズ」シリーズ>

本年度の発行図書は次のとおりである。これにより対象国は8カ国、出版作品数は46作品となった。

・No.46 タイ語 ⑬

(書名) 『兎の眼』

著者 灰谷 健次郎

訳者 小林マリナ

3. 教育支援

(定款第4条第4号に該当)

勉学環境に恵まれない東南アジアの生徒のために、次の支援を実施した。

① ラオス：

- ・ 3校（ピアマイ小学校、ナノン小学校、ヒンテーク小学校）に図書を寄贈。

* 3校は当財団が建設した学校

② カンボジア：

- ・ 3校（オーニョ小学校、プアーク中学校、トノルバンベーク小学校）に図書を寄贈。

* 3校は当財団が建設した学校

③ ミャンマー：

- ・ 現地での新型コロナウイルスの感染拡大防止対応（寄贈予定先の寺子屋学校は休校）を勘案し、本年度予定していた文房具等の寄贈は見送った。

以 上

「附属明細書」について

2020年度の事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

以 上